

第48回中学生作文コンクール

都道府県別生命保険文化センター賞1等

あなたに贈る最後の手紙

愛媛県 西条市立東予東中学校

三学年

目見田 聖奈

「今までありがとうございます。」

先日、両親の知人で私にもよくして下さった方が二人も亡くなりました。末期のガンで、発見したときにはもう手遅れだったそうです。今まで、人の生命のことなど深く考えたこともなかったのですが、この出来事を通して私は生と死について考えるようになりました。

生きている者、命ある者には必ずお終いがあります。しかし、人生の締めくくり方は人それぞれで、幸せに別れを告げることができない人もいれば、そうでない人もいると思います。また、残される家族や親しい友人たちも、皆同じように深い悲しみを覚えると思います。ずっと一緒に歩んできた人が、突然、自分の隣からいなくなる、お別れをする間もなく去ってしまう……それがたとえ現実であつても、すぐに受け止めることはできません。しかし、残された家族はいつまでも悲しんでいる訳にはいきません。日々の暮らしが待っています。もし、一家の大黒柱を失ってしまった家族はそれからどのように生活するのでしょうか。そんな心の悲しみと、それ以後発生する現実問題を支えてくれるのが生命保険なのです。

以前、生命保険について調べていたら、「ラストラブレター」という言葉を見つけました。生命保険とラストラブレター。どんなつながりがあるのか疑問に思っ、詳しく読んでみることにしました。すると、ラストラブレターとは生命保険のことで、英国においてそう呼ばれていることが分かりました。自分の隣にいた人が突然いなくなつたとき、残された人達の悲しみは、はかり知れません。しかし、金銭的な理由によって遺族の夢や希望が奪われたり、将来の選択肢が減ってしまうことは、あつてはなりません。そこで亡くなる前に私達は、大切な人に何を遺すか考えるべきなのです。もちろん、お金を遺すことも大切ですが、私は自分自身の生き方、そして私達の想いを愛する人に遺したいと考えています。人間は、例えその身がなくなっても人の心の中では生き続けています。先日亡くなられた二人もそうです。私の心の中ではずっとずっと生き続けています。だからこそ、ラストラブレター、最後の愛の手紙は遺された人達に

第48回中学生作文コンクール

贈る最高のプレゼントなのです。

これからの日本は、医療の発達などにより平均寿命も延び、さらに高齢化が進むと考えられます。現在二人に一人はかかると思われるガンが自分の身に降りかかってきたら……。助かるか助からないかは別として、闘病中やその後の生活において、自分自身が幸せに生きることが大切になってくると思います。そして、その人が亡くなられた後、生命保険という形の想いを受け継ぐことができれば遺族は幸せに暮らせると思います。私は、愛する人が亡くなるときに一人ひとりのもとにラストラブレターが届くことを願います。